

| 単元に係る児童の実態 |
|---|
| レディネステストの結果から、本学級の児童は、1位数などの除法の計算の正答率は高い。また、除法の場面の式表現や□を用いた式、計算の確かめをすることができる。未習問題であっても、既習の知識を用いて解答できた児童が6名いた。 |

| 単元のゴール |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の除法が筆算を使って解ける。 ・「倍」を求める計算でも、除数を用いて計算できる。 ・確かめ算を用いて、「被除数＝除数×商＋余り」の関係がわかる。 ・「和」「差」「積」「商」の用語がわかる。 |

| 数学的活動 | 数学的な見方・考え方 |
|---|---|
| <p>ア 日常の事象から算数の問題を見だし、結果を確かめたり、日常生活等に生かしたりする活動</p> <p>イ 算数の学習場面から算数の問題を見だし、結果を確かめたり、発展的に考察したりする活動</p> <p>ウ 問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う活動</p> | <p>(見方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の表し方の仕組み、数量の関係や問題場面の数量の関係などに着目すること ・根拠を基に筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりすること <p>(考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の意味と方法について考察すること 2位数などによる除法 除法に関して成り立つ性質 四則計算の結果の見積もり ・式に表したり式に表されている関係を考察したりすること □、△などを用いた式表現など |

| 主体的・対話的な学びに向けて |
|---|
| <p>主体的な学びを実現するために、除法に関して成り立つ性質に気付かせ、計算の仕方を考える場面を設定する。具体的には、第1、2時で10の束、100の束を用いて10や100を単位とすれば、九九を1回適用して計算できることよきに気付かせたり、10や100を単位として筆算で上の位から商を立てていくことができることに気付かせたりすることで、もっと大きな数でも解けるとい見通しをもたせる。</p> <p>対話的な学びを実現するために、話し合い活動を通して友達の考えのよさを見つける場面を設定する。具体的には、自力解決で自分の考えをノートに表現させ、それを基に友達と話し合う活動や発表し合う活動を通して他の人の考えの良いところや改善点を考え、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p>深い学びを実現するために、筆算を形式的に教えるだけでなく、分ける操作と結びつける場面を設定する。具体的には、10や100の束を用いて、わり算に限っては上位から計算することの意味や、計算の途中にできる部分積の意味についても理解を深めさせるようにする。</p> |

| 単元計画 | |
|-----------|--|
| | <p>◎学習課題・問題 ○まとめ</p> <p>◆各時間終了後の児童の姿</p> |
| 1 | <p>◎80÷4の計算の仕方を考えよう</p> <p>○何十のわり算は、10のたばがいくつあるかを考えれば求められる。</p> <p>◆既習事項を想起させ、わり算は九九で解けることを思い出す。</p> <p>◆数直線の意味が分かる。</p> |
| 2 | <p>◎600÷3の計算の仕方を考えよう</p> <p>○何百のわり算は100のたばがいくつあるかを考えれば求められる。</p> <p>◆10や100のかたまりとして与えられる数を捉えれば、3年生で学習したことで解ける。</p> |
| 3 (本時) | <p>◎72÷3の計算の仕方を考えよう。</p> <p>○これまでの学習を生かせば、解ける。</p> <p>◆10の位に目をつけて、わり算をすることが分かる。</p> |
| 4 | <p>◎72÷3の筆算の仕方を考えよう。</p> <p>○「たてる→かける→ひく→おろす」の繰り返しで計算できる。</p> <p>◆「たてる→かける→ひく→おろす」の筆算の仕方がわかる。</p> |
| 5 6 | <p>◎76÷3の筆算の仕方を考えよう。</p> <p>○あまりのあるときは、あまりがわる数より小さくなっているか気をつける。</p> <p>◆四則計算の答えを「商・和・差・積」ということが分かる。</p> <p>◆あまりがわる数より小さくなること分かる。</p> |
| 7 | <p>◎86÷4、62÷3の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>○筆算の仕方はこれまでと同じ仕方で行ける。</p> <p>◆筆算の中で、省略する0と位の0の扱い方が分かる。</p> |
| 8 | <p>◎3桁の筆算の仕方を考えよう。</p> <p>○3けた÷1けたの筆算も、2けた÷1けたの筆算と同じ仕方で行ける。</p> <p>◆「たてる→かける→ひく→おろす」の筆算の繰り返しで、解くことができる。</p> |
| 9 | <p>◎843÷4の筆算の仕方を考えよう。</p> <p>○答えに0をたてたときのかけ算やひき算は書かなくてもよい。</p> <p>◆答えに0を立てたときのかけ算やひき算は書かなくてもよいことが分かる。</p> |
| 10 11 | <p>◎256÷4の筆算の仕方を考えよう。</p> <p>○わられる数の一番大きい位の数が、わる数より小さいときは、次の位の数までふくめた数で計算を始める</p> <p>◆筆算途中の0の計算はかかずに省略する。</p> <p>◆割れないときは、次の位までおろして計算することがわかる。</p> |
| 12 13 | <p>◎何倍かを求めるときは、どんな計算をすればよいかを考えよう。</p> <p>○ある大きさがもとにする大きさの何倍かを求めるときは、わり算を使う。</p> <p>◆もとにする数を1と考えるとわり算を使って計算すれば、倍を求めることができる。</p> |
| 14 | <p>◎もとにする大きさを求めるときは、どんな計算をすればよいかを考えよう。</p> <p>○もとにする大きさは、□を使ってかけ算の式に表すと、求めやすくなる。</p> <p>◆□を使って立式し、計算することができる。</p> |
| 15 | <p>◎暗算の仕方を考えよう。</p> <p>◎自分にあった暗算のしかたを見つける</p> <p>◆わる数が、わりやすい数になるようわられる数を分けて頭の中で計算できる。</p> |
| 16 17 | <p>◎力をつける問題 しあげ</p> <p>◆様々な問題を解くことで、わり算の活用を学ぶ。</p> |

授業デザイン (3/17)

前時の概要

80÷4 や 600÷3 のような計算は、10 や 100 を単位とすれば、九九を適用して計算できることを学んだ。

一人一人を伸ばす

上位層、下位層に向けて

【上位層に向けての手立て】

- ・ 解法のパターンをいくつか考えさせる。
- ・ 補充問題を解かせる。

【下位層に向けての手立て】

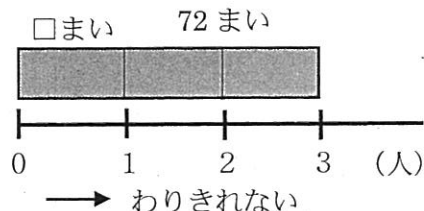
- ・ 図や具体物を多く取り入れ、具体的なイメージをつかみやすくさせる。
- ・ 補充問題を、ヒントを活用し、解かせる。

本時の目標：2位数÷1位数（余りなし）の計算のしかたがわかる

問 72枚のおりがみを3人で同じ数ずつ分けます。1人分は何枚になりますか。

課 計算のしかたを考えよう。

式 $72 \div 3$



見 だいたい一人 20 まい

- 自**
- ① 10の束とバラに分けて考えた。
10の束は7つあるので、 $7 \div 3 = 2$ あまり1
バラは2枚なので、あまりの10枚と合わせて、 $12 \div 3 = 4$
よって、一人分は24枚
 - ② 72より小さくて、3でわりきれぬ数をさがした。
 $60 \div 3 = 20 \rightarrow 20$ 枚のこりは
 $72 - 60 = 12 \rightarrow 12$ 枚なので
 $12 \div 3 = 4 \rightarrow 4$ 枚
よって、一人分は24枚

ま これまで学習したやり方で、計算できる。
10のたばから、分けるとよい。

ふ

今後の展開

〈期待する児童の姿〉

- ・ 他の四則計算と同様に、筆算を用いて計算できる。
- ・ 3位数の計算も2位数の場合と同様にして計算できることに気づき、計算できる。
- ・ 倍や暗算、検算にも応用して考えることができる。

〈次時の学習課題〉

- ・ $72 \div 3$ の筆算のしかたを知る。
- ・ 筆算を使い、適応問題が計算できる。

本時の流れ (授業スタンダード) 学習活動

指導上の留意点

評価

目標・ねらいの提

- 1 問題を知る。
・ 72枚のおりがみを3人で分けるとき、一人分は何枚か。
- 2 課題を知る。
・ $72 \div 3$ の計算のしかたを考えよう。
- 3 見通しをもつ。
・ これまでの学習内容とのちがいに気付かせ、わりきるためにはどうしたらよいかを考えさせる。

自分で考える活動

- 4 自力解決する。
・ いくつか考え方があることを伝え、その考え方を導き、答えはどれも同じになることを確認する。

学び合う活動

- 5 発表する。
・ 自分の考え方の同じ点や違う点に気付かせ、確認する。
考 2位数÷1位数の計算のしかたを既習の除法計算を基に、具体物や式を用いて考え、説明している。(発表、ノート)
- 6 まとめをする。
・ これまで学習したやり方で、計算できる。

学んだことのふりかえり

- 7 ふりかえりをする。
・ 学習した内容を自分の言葉でまとめる。(ノート)
- 8 補充問題に取り組む